

日本経営倫理学会会報

JAPAN SOCIETY FOR BUSINESS ETHICS

新体制決まる

常任理事 河川 洋徳（経営倫理実践研究センター専務理事）

日本経営倫理学会（以下 J A B E S）では、昨年後半より新役員体制の構築に当たり新たな制度が導入され、昨年9月28日開催の第167回理事会で、新会長に潜道文子氏（拓殖大学副学長・商学部教授）が就任した。

J A B E Sでは令和元年度総会実施に先立ち、役員（理事・監事）の任期満了に伴う新理事の選定方法を理事会で審議してきた。その結果、新たに「役員候補検討委員会」（第163回理事会）を発足させ役員選任の透明化を進めることが決定された。この委員会により、候補者が理事会に推薦され、審議の結果令和元年度及び令和2年度の役員（理事・監事）候補が決定され、6月22日開催の総会にて承認された。

これを受け開催の新理事会において、会長選任についても理事メンバーによる選挙とすることが決定され、会長選挙が行われた。

7月27日開催の理事会で公示、8月5日に立候補締め切り。同日より選挙に入り8月19日に投票が締め切られた。同日3名の監事立会いの下開票が行われ、潜道文子氏が令和元年度・2年度の学会長に新たに選任された。引き続き9月28日開催の第167回理事会にて、梅津会長から潜道会長にバトンが度され、新たな学会理事会が正式にスタートした。

当日、副会長として葉山 彩蘭、蟻生 俊夫、小方 信幸の3氏が会長より推薦され、全会一致で承認された。様々な新政策概要も発表され、新たな体制がスタートした。

新会長就任挨拶では、これまで学会を指導されて来られた梅津前会長に敬意と謝意が述べられ、参加者全員から盛大な拍手が送られた。

*第167回理事会で決定した新役員人事は以下の通りです。（それぞれ理事・監事50音順）

【令和元年度～令和2年度（2019年度～2020年度）役員等一覧】

| | | | | | | | | |
|---------|-------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--|
| 会 長 | 潜道 文子 | | | | | | | |
| 副 会 長 | 蟻生 俊夫、小方 信幸、葉山 彩蘭 | | | | | | | |
| 常 任 理 事 | 今井 祐 | 井上 泉 | 梅津 光弘 | 河川 洋徳 | 剣持 浩 | 高浦 康有 | 高野 一彦 | |
| | 中野 千秋 | 浜辺陽一郎 | 馬越恵美子 | 水尾 順一 | 村山 元理 | 劉 慶紅 | | |
| 理 事 | 岡部 幸徳 | 荻野 博司 | 勝田 和行 | 狩俣 正雄 | 笹谷 秀光 | 蕎麦谷 茂 | 高 巖 | |
| | 高田 一樹 | 出見世信之 | 野村千佳子 | 古谷由紀子 | 松田千恵子 | 文 載皓 | | |
| 監 事 | 中谷 常二、山下 洋史、山本 正 | | | | | | | |

会長就任のご挨拶

潜道 文子（拓殖大学副学長・商学部教授）



この度、第5代日本経営倫理学会会長を拝命致しました。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

本学会には、私の恩師であり、第2代の本学会会長を務められた小林俊治先生（早稲田大学名誉教授）のご紹介で入会させて頂きました。小林先生が学会長として編纂された、日本経営倫理学会編（2008）『経営倫理用語辞典』（白桃書房）作成時には、私も編集委員として作業に参加させて頂きましたが、その際、当時、青山にあった学会事務局で学会創立者の水谷雅一先生にお目にかかる機会もあり、研究などについて貴重なアドバイスを頂戴いたしました。とても懐かしい思い出です。

あの頃より約10年の歳月が流れ、本学会は、現在、会員数が約500名という、学会としてはかなり大きな組織となっております。その意味では、会長就任に際しまして、その責任の重さを痛感している次第でございます。

また、本学会がこのような順調に成長を遂げてきた背景には、歴代の会長や副会長、理事ならびに会員の皆様のご努力やご貢献、そして事務局の方々の多大なるご支援の存在があります。例えば、梅津光弘前会長は、任期を通じて若手研究者の育成に力を入れられ、また学会の研究レベル向上に尽力されました。具体的には、若手研究者育成研究会の設立や、インターゼミナール（大学ゼミナール対抗のCSRプレゼン大会）の継続開催と定着に大きく貢献されました。さらに、兄弟団体BERCとの共催、外務省などの後援を得て第9回経営倫理シンポジウム（テーマ：SDGs）を、そしてこれを受けて第10回経営倫理シンポジウム（テーマ：ESG投資）を開催されるなど、様々な功績を残されました。

このような梅津前会長の活動を引き継ぎつつ、今年度は、次のような側面に力点を置いて学会運営を行いたいと考えております。

第1に、会員の皆様の研究成果を発信する場を増やしていきたいと考えております。第2に、日本企業における経営倫理に基づいたマネジメントの実践を視察する機会を作りたいと考えております。第3に、海外の経営倫理分野の研究者との研究交流を進めたいと存じます。第4に、水谷先生が作られた、本学会（JABES）、経営倫理実践研究センター（BERC）、日本経営倫理士協会（ACBEE）という3つの組織の協力関係を強化し、三位一体としての発展の可能性を探りたいと存じます。

経営者として、働人として、株主として、そして消費者として、一人ひとりの知恵や創造力が試される時代になって参りました。このような時代において、「経営倫理」分野の学会として、本学会ができること、そしてなすべきことを皆様と一緒に考えながら進んで参りたいと存じます。ご協力の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

会長退任にあたって

梅津 光弘（慶應義塾大学商学部准教授）



2015年の会長就任以来2期4年4ヶ月に渡って会長職を務めさせていただきました。この間多くの方々にも多大な支援をしていただき心から感謝申し上げます。

就任以来、学会の学問的な充実・発展と若手研究者の育成に力を注いでまいりましたが、お陰様で会員数もこれまで最多の480人を超えるまでになり、若手育成の研究会や学部学生のインゼモも毎年100名以上の参加者を得て今後が楽しみな状況です。実務家との交流もSDGsやESG投資のシンポジウムなど、注目のトピックを世間のブームに先駆けて実施することができましたし、研究発表大会も『スポーツと経営倫理』『AI・ロボテックと経営倫理』といった時代の最先端のテーマを取り上げることができました。

日本における諸学会の現状を考えると、少子高齢化や大学院進学の不人気（日本国内、海外の大学院を問わない）などを背景に、学会の低迷と会員数の激減など厳しいニュースばかりが入ってくるこの頃です。本学会もご多分にれず、その傾向がみられるのですが、経営倫理学および本学会の伸び代はまだあるものと信じております。後を継がれた潜道さんにはいろいろと知恵を絞っていただき、これまでの方向性を継続して

だきたいと思っています。

私はこれまで、学会やBERCなど様々な組織の運営に忙殺されてきた感があります。かねてから計画していたサバティカルを2020年度にはいただいたので、これまでとは異なった新たな方向性の開拓と仕込み時間に時間を使っていきたいと願っています。幸い秋からは英国のケンブリッジ大学で研究する機会が与えられましたので、しばらくの間は（あるいは永久に？）自由な時間を満喫できたいと思っています。

最後になりましたが、事務局の河口さん、内田さんには本当にお世話になりました。いちいちお名前は列挙しませんが、その他の先生方も含め、本当にありがとうございました。

2019年9月研究交流例会実施報告

副会長 葉山 彩蘭（淑徳大学経営学部教授）

9月28日に開催された研究交流例会では、計4名の学会会員に登壇していただいた。第1部においては、2019年8月9日～11日にアメリカボストンで行われたSBE(Society for Business Ethics: 米国経営倫理学会)年次大会へ出席した梅津光弘先生(慶應義塾大学准教授)、田中敬幸先生(高崎商科大学准教授)、そして本橋潤子氏(慶應義塾大学大学院後期博士課程)に大会に参加した感想を中心に報告していただいた。第2部では、9月上旬に『すべてはミルクから始まった—世界最大の食品、飲料会社「ネスレ」の経営』を出版された高橋浩夫先生(白鷗大学名誉教授)にご登壇いただき、「ネスレの経営と経営倫理—CSV経営の背景—」をテーマに研究報告していただいた。

第1部のSBEへの参加報告について、まず梅津准教授から年次大会の様子、研究発表論題と研究傾向、そしてSBE年次大会に参加し発表する日本人研究者が年々増えていることなどを紹介していただいた。次に、田中准教授からは特に印象に残ったセッションについて報告していただいた。田中准教授は「The Good, the Bad, and the Ugly Aspects of Care」のパネルセッションを紹介され、ケアの倫理および不祥事や不慮の事故時におけるリーダーシップに関する研究の意義をご説明くださった。最後に本橋氏は、今回で3度目となるポスターセッション発表を行い、「心を入れる、プライドを捨てる、ひらきなおる」という三つの心得を語ってくださった。

第2部の「ネスレの経営と経営倫理」の研究報告において、高橋名誉教授は「ネスレの本社が置かれているスイスは、なぜ国家競争力が世界ランキング1位になったのか」という問題提起から始められた。200年前から永世中立国としての国際的スタンスを明確に宣言しているスイスは、多くの国際機関を誘致し、現在では魅力が溢れる観光大国となっている。世界180カ国で事業展開をしているネスレはスイスのヴェヴェーに本社を置いている。同社の2019年3月時点の世界企業時価総額ランキングは13位。45位に位置する日本の代表企業、トヨタ自動車よりも「超巨大企業」と言える。ネスレは2006年以降、株主と社会への価値創出を同時に実現するCSV(Creating Shared Value: 共有価値の創造)を事業戦略の基本原則に掲げている。世界に418の工場を持つが、その3分の2は新興国にあり、それがベースとなって社会価値と経済価値の同時実現を可能にするとしている。

当日は、約30名の参加者が2時間半にわたって経営倫理に関する研究交流を深め、非常に有意義な研究例会となった。グローバル企業の経営倫理についての研究や国際学会への参加など、本学会の益々の発展について嬉しく思った。貴重なお時間を割いてくださった登壇者の皆さんには改めて心より感謝申し上げる。

第11回経営倫理シンポジウムのご案内

常任理事・シンポジウム実行委員長 水尾順一（駿河台大学名誉教授）

日本経営倫理学会では、2020年2月28日(金)に「経営倫理とコーポレートガバナンス：ジェンダー平等の推進を考える」のテーマで、第11回経営倫理シンポジウムを開催します。いま、多くの企業でSDGsのNo.5に掲げられている女性活躍推進が重要なテーマとなっていますが、その取り組みは日本ではまだ十分とは言えません。女性役員数の数値をみても内閣府男女共同参画局の調査によれば、2012年から2018年の6年間で上場企業の女性役員数は約2.7倍に増え、着実に成果が上がってはいるものの、その比率は4.1%（2018年）と

依然として低く、ルウェー（38.7%）やフランス（34.4%）など諸外国の女性役員割合と比較しても低い水準にとどまっているのが実状です。ダイバーシティで多様な意見や経路を経営に活かすことが求められている現状を考えれば、重要課題のひとつといっても過言ではありません。

このような状況を踏まえ、本シンポジウムでは、今後日本企業が取り組むべき課題と施策を議論いたします。本学会の潜道文子会長、アサヒグループホールディングス株式会社取締役会長兼取締役会議長の泉谷直木氏の各基調講演に続き、パネルディスカッションでは、女性社外取締役を務める3名の本学会関係者にも参加いただき、様々な立場から議論いたします。学会員はもとより、BERC、ACBEE 関係者、さらには学会員以外の一般の方々にもご案内・ご参集賜りたくよろしくお願ひ申し上げます。

1. 日 時：2019年2月28日（金）13:30～17:00

2. 会 場：拓殖大学文京キャンパス C館 201

3. 参加費：JABES・TMS・BERC・ACBEE 会員：1,000円 / 一般：2,000円、大学院生・大学生：各無料

* 終了後、17:20からE館9階ラウンジにて懇親会を予定しています（会費：一律3,000円）

日本経営倫理学会第28回研究発表大会のご案内

第28回研究発表大会実行委員長 文 載皓（常葉大学経営学部准教授）

日本経営倫理学会第28回研究発表大会を2020年6月20日（土）、21日（日）に常葉大学にて開催致します。最新の経営倫理の動向と研究成果についての議論と交流の機会となっておりますので、是非ご参加賜りますようお願い申し上げます。

今大会の統一論題は「外国人労働者と経営倫理—産学官連携を中心に—」で、少子高齢化といった社会環境や経営環境の変化が進行する中で、直面している社会的な課題について、産学官連携の観点から議論を試みます。

日本国内に受け入れている外国人労働者は、人数だけで見てもOECD加盟国で4番目に多くなっています。勿論、これらの外国人労働者の受け入れに対する日本政府の政策にも近年大きな変化が見られています。

周知の通り、近年、静岡県は外国人労働者が非常に多く働いている地域として大きく取り上げられています。現在、最も外国人労働者を雇い入れている地域は県西部ですが、東部でも数多くの外国人労働者が働いています。また、西部の中でも浜松市には外国人労働者達によって大きなコミュニティが形成されています。

今大会は外国人労働者問題を研究する研究者をはじめ、静岡市役所のような公的機関やグローバル企業の実務者も報告や議論の場に参加する予定です。

具体的には、西部地域の大手企業（ヤマハを予定）の実務者と外国人労働者問題に詳しい専門家に基調講演をお願い致しました。さらに、富士市役所の外国人労働者政策担当職員、外国人労働者受け入れ政策の専門家、外国人労働者を多く雇っている大手企業（県東部所在）の経営者の方々などにパネリストをお願いすることになりました。

他方、自由論題報告でも、数多くの最新研究成果が発表されます。懇親会の会場は選定中ですが、会員同士の懇親の場となりますので、多くの方のご参加を期待しております。

なお、前日の6月19日（金）に企業訪問ツアーを企画しております。具体的な訪問先などが決まりましたら、改めてご連絡申し上げます。

理事会議事録（要旨）

《第166回理事会》

日 時：2019年7月27日（土）12:00～14:55

場 所：経営倫理実践研究センター・会議室

1. 2019年度-20年度会長選出：立候補者による理事選挙を実施することを決定。

2. 新入退会者承認の件：新入会員10名、退会者16名で会員数は477名に。

3. 日本経営倫理学会賞

4. 2019年度理事会・研究交流例会日程

5. 2020年度総会・研究発表大会

6. 日本経営倫理学会に関する英文呼称

7. 第27回研究発表大会総括

8. JABESウェブサイトリニューアル

《第167回理事会》

日 時：2019年9月28日（土）12:00～13:40

場 所：経営倫理実践研究センター・会議室

1. 会長選挙結果報告：新会長に潜道理事が就任。梅津会長より会長選の結果報告があり、これ以降の進行を新会長に託すとの発言があり、議長が交代した。

2. 会長・副会長・常任理事決定

3. 新会長就任あいさつ、役員担当制発表

<挨拶の骨子>

・活動ごとに委員会を作り責任制を設け活動を進めてゆく。

・副会長各位には、具体的活動グループに積極参加をお願いする所存。

・理事各位との情報共有を行い活動を進めたい。

・研究能力の向上と発表の機会創出・拡大を図りたい。

・学術的価値向上とともに、実践的価値の拡大の為、もう一つの学会誌、例えばハーバードビジネスレビューのような形のものを作り上げたい。

4. 新入退会者承認：退会者1名で会員数は476名に。

5. 研究部会補助金申請

6. 2019年度経営倫理シンポジウム：責任者は水尾常任理事に。

7. 2020年度総会・研究発表大会

8. 研究部会名等英文表記

9. 日本経営倫理学会ウェブサイト

「第168回理事会」

日時：2019年11月8日（金）18:00～20:30

場所：経営倫理実践研究センター・会議室

1. 新入退会者承認：入会者1名、退会者1名で会員数は476名に。
2. 2020年度（第28回）研究発表大会統一論題：「外国人労働者と経営倫理」とする。開催場所は常葉大学静岡草薙キャンパスを予定。
3. 学会英文呼称

4. 第11回経営倫理シンポジウム学会誌27号記載論文審査経過報告
5. 監査報告
6. 第9回CSR構想インターゼミナール日程：2020年1月11日に開催。
7. 関連団体に関する情報共有
8. 学会役員候補者推薦制度

学会報誌面充実にかかる原稿募集のご案内

常任理事 高浦康有（東北大学大学院経済学研究科准教授）

この度、学会報編集委員長を務めさせていただくことになりました高浦でございます。今般、潜道新会長から学会員の情報共有を活性化するため、学会報を有効活用したいとのご提案がありました。検討を踏まえ、下記の通りご案内申し上げます。

具体的には、これまでの大会実施等の報告に加え、会員の皆様から自由投稿いただく形で、

- 1) 会員によって執筆された単行本の自著紹介
- 2) 海外研修・留学報告
- 3) 他学会・国際会議等参加報告
- 4) 日本経済学会連合の補助事業募集などの案内

等を学会報に掲載させていただきます。つきましては年3回（7、11、2月頃）の発行スケジュールに合わせ、随時これらのテーマでのご投稿をお受けできればと存じます。一つのトピックにつき400字程度以内で下記アドレスまでお送りください。写真（画像データ）を添付いただいても結構です。なお誌面全体の割り付けの関係で、適宜、ご投稿内容を編集させていただくことをご了承ください。

次号から試行的に運用開始し、本制度を整えてまいります。誌面充実のため会員の皆様のご協力を賜れば幸いに存じます。

日本経営倫理学会（JABES）事務局 E-Mail <info@jabes1993.org>

令和元年度年会費納入のお願い

先般の年次総会で決議されました通り、学会諸活動を推進する財源である年会費の納入をお願いいたします。

◇年会費：正会員・1万円 学生・3千円 法人(上場)・5万円 法人(非上場)・3万円

◇年会費支払いの確認は事務局まで、お問合わせください。

◇年会費自動振替のお手続きがお済みでない各位は切り換えをお願いいたします。

メールアドレスご登録のお願い

当学会事務局では今後、会員の皆様への周知事項はJABESウェブサイトへの掲載及び、電子メールによる配信を中心に行ってまいります。メールアドレスを未登録の方は事務局（info@jabes1993.org）までご連絡ください。皆様のご理解ご協力のほど、お願いいたします。

* 学会誌の配布、その他限られたもの以外、原則郵送はいたしません。

* 現在、郵送しております会員でメールアドレスを登録されている方へは順次電子メールでの配信に切り替えさせていただきます。

* メール受信許可設定のお願い

迷惑メール対策などでドメイン指定を行っている場合、メールが受信できない場合がございます。

「@jabes1993.org」の受信設定をお願いいたします（jabes1993.orgはJABES事務局のドメインです）。

【学会連絡先：東京事務局】

住所：〒107-0052

東京都港区赤坂1-1-12

明産溜池ビル8F

電話：03-6441-0640

FAX：03-6441-0641

E-mail：info@jabes1993.org

担当：高浦常任理事（会報）

河口常任理事（総務）

発行：日本経営倫理学会

編集後記

4年にわたり学会を率いてきた梅津光弘先生から潜道文子先生に会長のバトンが渡されました。いよいよ経営倫理の重要性が認識されるなか、意欲的な舵取りで学会の存在感を高めた前会長のご尽力に感謝するとともに、新会長のもとでさらに活動は進化し、深化させなければなりません。

日本の国際競争力が低下するなか、政府はコーポレート・ガバナンスを「アベノミクス」の中核に据えてきました。企業トップの緊張感を高めるとともに、グローバル化に積極的に取り組む企業経営を後押しするのに躍起です。その際に欠かせないのが、経営陣さらには会社全体の倫理感であり、それが欠ければ逆に日本の産業力を損ないかねません。

最近の相次ぐ企業不祥事は、そうした当然のことが必ずしも定着していないことを示しています。企業人の腑に落ち、実践に移される経営倫理とは何か。われわれの真価が問われています。

（編集担当/荻野博司）